

特 集

令和2年度植物防疫事業の推進

兵庫県農業改良課環境創造型農業推進班 …… 2

<農業改良課情報>

兵庫県農業改良課からのお知らせ …… 4

<試験研究情報>

令和2年度病害虫関係試験研究の取り組み

虫害および農薬編 …… 5

病害編 …… 6

<県植防情報>

第60回通常総会 …… 7

新農薬等展示ほ58件の設置が決定 …… 12

<連載>

「植物防疫基礎講座」 — 野菜のふしぎ — (第13話 ニガウリの不思議)

永井 耕介 …… 13

— 田畑の草くさ —

烏野豌豆・矢筈豌豆 (カラスノエンドウ)

マメ科ソラマメ属のつる性一年生～越年生草本。「エンドウ」と名がつくが「エンドウ属」ではなく「ソラマメ属」。本州以南の非灌漑期の水田、畑地、畦、道端、野原など日当たりのいい場所にごく普通。茎は方形で葉は偶数羽状複葉。葉の先端は3本の巻きひげとなり近くのものに巻き付き高さ150cmに達することも。

道端や野原など、どこでも目につくカラスノエンドウであるが、神々の住む「不思議の世界」でも普通であったようである。こんな場面があった。2001年に封切られたスタジオジブリ制作の「千と千尋の神隠し」。その中盤、豚にされた父親と母親を救うため「お湯屋」で働く「千」こと千尋であるが、次第に父母を救うことを忘れかけてきた。そのとき、「ハク」が「千」に「元気になるようにまじないをかけて作った」というおにぎりを渡す。そのおにぎりを食べながら「千」は号泣するのだが、その「千」と「ハク」のシーンでは、彼らの後ろに一面のカラスノエンドウが描かれていた。

神々の「不思議の世界」は、一年中花が咲き乱れる世界であり、「ツバキ」も「ツツジ」も「シヤクナゲ」も一緒に咲いているような世界であるが、「千」と「ハク」のシーンにはどこにでも見られるカラスノエンドウが描かれていた、というのが印象的ではあった。

余談ながら、野豌豆には烏と雀があるが、その間の「カスマ」というものもある。「からす」と「すずめ」の「間(ま)」ということで「かすま」と名付けられたらしいが、名付けるのなら「かすま」「ぐさ」ではなく「かすま」「野豌豆」と名付けてもらっていたらと思うのは私だけだろうか。

(健)

令和2年度植物防疫事業の推進

本県では、①農業生産の安定 ②県民等の食と農を通じた安全の確保を目的として、「病害虫発生予察管理事業」「農薬安全対策事業」を柱とした植物防疫事業を推進しています。

安全で良品質な農産物の安定的な生産・供給、環境と調和した農業の実践を図るため、発生予察情報の提供や環境負荷が小さく効率的な病害虫防除対策を推進するとともに、農薬取締法など関係法令の周知を図り、農薬の適正かつ安全な使用の指導・取締を行います。

《事業の主な内容》

1 病害虫発生予察管理事業

稲・麦・大豆をはじめ、主要な農作物の病害虫の発生状況を調査し、発生時期、発生量を予測して、効率的な防除に役立てるための予察情報を提供するとともに、より適正な防除のため、農作物病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

携帯からもアクセス可能

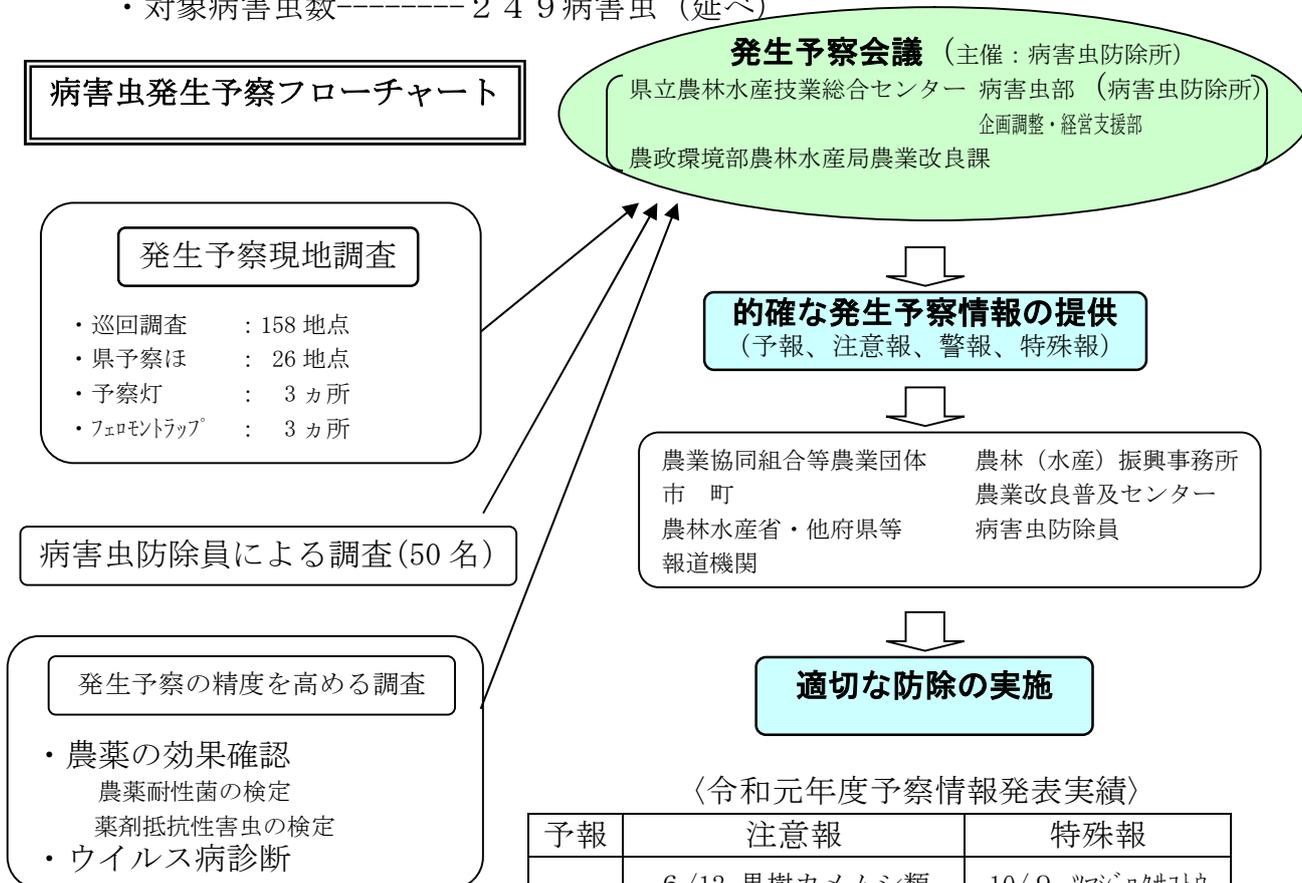
をWEB上で公開しています。

また、化学合成農薬のみに依存した病害虫防除から総合的病害虫・雑草管理(I P M)を進めるため、生物的防除(天敵等)、物理的防除(黄色蛍光灯利用等)及び耕種的防除(作期の調整等)を組み合わせた総合防除技術を確立し、環境にも配慮した安全かつ効果的な病害虫防除を推進します。



【病害虫発生予察】

- ・対象作物数-----20作物
- ・対象病害虫数-----249病害虫(延べ)



2 農薬安全対策事業

農薬の安全かつ適正な使用の徹底を図るため、講習会・研修会の開催や農薬管理指導士の認定、無登録農薬の使用禁止、ポジティブリスト制度や短期暴露評価制度の周知などにより、より一層の農薬使用基準の遵守を推進します。

また、農薬販売者・防除業者・ゴルフ場等への指導・取締を実施します。

事業名等	事業内容	主な実施地区 または対象等
農薬安全 使用対策	(1) 農薬安全使用技術講習会の開催 (対象：販売業者・市町・J A・農薬使用者等)	神戸市・姫路市・ 加東市
	(2) 産地・生産部会等での農薬安全使用講習指導	県内全域
農薬指導 取締対策	(1) 農薬販売業者等立入指導取締(立入検査約200件)	販売業者数 2,636 販売所 防除業者数 1,192 事業者
	(2) ゴルフ場立入指導(立入検査約30件)	ゴルフ場数 154カ所
	(3) 農薬管理指導士認定研修 認定状況 1,786人(R2.6.16現在) (販売業者396人、ゴルフ場726人、防除業者等664人)	県内全域

【兵庫県農薬危害防止運動について】

兵庫県では農薬による事故防止等を目的に、農政環境部及び健康福祉部などの緊密な連携のもと「兵庫県農薬危害防止運動」を実施し、農薬使用において遵守すべき事項の周知徹底と農薬の取扱いについての指導を実施します。

実施期間：6月1日～8月31日（6月1日～7月31日は重点月間）

1 広報活動による啓発宣伝（右図）

ポスター等を活用した広報活動により普及啓発

2 医療機関との連携

ア 事故者の処置体制

「農薬中毒の症状と治療法」等の資料によって
応急措置等について周知徹底しています。

イ 事故の把握

健康福祉事務所、医療機関などが連携を密にし、
事故状況の把握に努めています。

3 農薬の取扱いについての指導

農薬販売業者、防除業者・ゴルフ場関係者・生産者
等農薬使用者に対して、関係法令等の遵守徹底を図
るとともに、販売、保管管理、使用状況等を検査し、
違法行為が発見された場合は、改善措置を講じます。



令和2年度農薬危害防止運動ポスター

(兵庫県農業改良課環境創造型農業推進班)

〈農業改良課情報〉

兵庫県農業改良課からのお知らせ

～令和2年度農薬安全使用技術講習会の開催について～

兵庫県では、毎年6～7月を農薬危害防止運動重点月間と定め、6月末から7月上旬にかけて「農薬安全使用技術講習会」を県内3箇所で開催してきました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和3年の1月から2月にかけての開催を予定しています。

農薬は、農作物等の安定生産、品質確保及び農業振興を図るうえで重要な役割を果たしていますが、使用方法を誤ると、効果が得られないばかりか、人畜、農産物や水域の生活環境動植物等に被害を及ぼすおそれがあります。

このため、講習会では農薬による事故の未然防止や農薬の適正かつ安全な使用の啓発を行っています。

※この講習会は、兵庫県農薬管理指導士（認定期間3年）の更新研修も兼ねています。



令和元年度農薬安全使用技術講習会の様子（左図：加東市、右図：姫路市）

1 令和2年度農薬安全使用技術講習会の情報について

講習会の日時等が決まりましたら、県のホームページにて開催のお知らせをします。
兵庫県HP

https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/af07_000000061.html

※農薬管理指導士更新研修の対象者には文書を自宅に送付してお知らせします。
(10月頃を予定)

2 参加方法

講習会への参加を希望される場合は、上記の県ホームページに講習会開催のお知らせが掲載されて以降、講習会当日までに農業改良課(078-362-9206)までお問い合わせください(事前申し込みがない場合は、会場の都合で参加をお断りすることがございます)。

令和2年度病害虫関係試験研究の取り組み

－ 虫害および農薬編 －

令和2年度の主な研究内容を下記のとおり紹介します。

1. UV反射シートによるアザミウマ・コナジラミ類防除技術の評価 (R2～3)

UV反射特性を持つ防草シート資材（以下、UV反射シート）は、飛行かく乱作用による害虫侵入防止効果のほか作物の生育改善効果も期待されている。今後、施設内での利用・普及が予想されることから、利用実態に即した条件での害虫に対する防除効果の評価を行う必要がある。

UV反射シートを施設内で利用した場合の害虫防除効果のメカニズムは明らかにされていないが、仮設としては行動異常による密度抑制効果が考えられる。本課題においては、このメカニズムを明らかにするとともに、これまで確立した他の視覚的防除資材との組み合わせによる減農薬栽培を実証する。

2. メッシュ農業気象データを用いた害虫発生予測手法の開発 (R2～3)

近年、栽培体系の多様化や局地的な異常気象により、これまでのアメダスデータを利用した害虫発生予測では、的確な予測が困難になってきている。より詳細な気象データが得られるメッシュ農業気象データを利用することで、害虫の発生予測の精度が高まることが期待できる。そこで、特に、令和元年度に多発生した果樹カメムシ類の発生や、暖冬年に被害が多発するスクミリンゴガイの越冬可否についての予測手法を開発する。

今年度は、果樹カメムシ類については発生量と前年の気象条件の関係を、スクミリンゴガイについては発生状況と冬季の気温の関係を明らかにする。

3. 生産現場で利用しやすい環境利用型農薬残留低減化技術の開発 (R2～4)

浸透移行性の大きい殺虫剤は、散布により植物体全体に成分が浸透移行するため、生産現場で広く利用されているが、ひょうご安心ブランドの認証基準（国基準の1/10）を超える事例がみられており、リスクを下げる技術の開発が求められている。本課題では①浸透移行性農薬の残留実態の把握、②散水及び光制御による散布剤の農薬低減化技術の開発、③粒剤処理における残留農薬低減化技術の開発に取り組む。

4. 新規害虫「ビワキジラミ」の防除対策 (H31～R3)

ビワキジラミは新規害虫のため、生態も不明な点が多い。登録薬剤はあるが直接虫体にかかると効果が低い事例もあり、防除法の早急な確立が必要である。淡路特産であるビワの産地を維持させるため、産地の栽培実態に合わせた効果的な防除法を構築する。

今年度は、発生調査を継続し、本種の発生程度を把握するとともに、薬剤防除に加え、耕種的防除や物理的防除の効果を検証することで、総合的な防除体系を構築するための基礎とする。

5. 野菜類におけるシロイチモジヨトウの総合防除体系の確立 (H30～R2)

淡路地域を中心に多発生しているシロイチモジヨトウに対して、薬剤感受性検定に基づく効果的な薬剤防除体系と、交信攪乱剤等の産卵抑制技術を組み合わせた総合的防除体系を確立することを目的とする。

今年度は、これまでに選抜した殺虫剤を核として、IGR剤等を組み入れた、害虫の発育段階を考慮した効率的・効果的な薬剤防除体系の構築を図る。また、小面積の設置では効果が不安定になりやすい交信攪乱剤に黄色LED灯を組み合わせることで防除効果がより安定する利用方法を検討する。最後にそれらの技術を組み合わせることで総合防除体系を確立する。

（兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター

病害虫部 八瀬・望月・田中・本田・柳澤・富原）

令和2年度病害虫関係試験研究の取り組み

-病害編-

令和2年度の主な研究内容を下記のとおり紹介します。

1. タマネギべと病の一次伝染源を中心とした防除体系の確立 (R2~4)

平成28年産の本県特産タマネギにおいてべと病が発生し大きな問題となったことから、関係機関が一体となって防除対策に取り組んできた。その結果、45日間以上の湛水による一次伝染源の低減、新規農薬を含む体系防除による二次伝染源抑制等一定の成果が得られ、ここ数年はべと病の発生は少発生に抑えられている。しかし、現状の対策は罹病株の抜き取りと薬剤防除の徹底であり両者とも発病してからの対策である。発病の起点となる一次伝染源対策は、圃場の湛水処理のみであり、より効果的な防除対策が望まれている。本年からはタマネギべと病の蔓延の起点となる一次伝染源を抑制するための資材・農薬の試験を行う。

2. 稲こうじ病を抑制する転炉スラグの最適施用条件決定手法の開発 (R2~3)

稲こうじ病の主な防除対策は薬剤であるが、天候不順が続く年には防除効果が得られにくい。そこで、稲こうじ病に対する薬剤散布以外の耕種防除技術として、転炉スラグ施用法の開発を図り、実用化を進めている。しかし、稲こうじ病に対する転炉スラグの抑制機構は不明であり、最適な資材や施用方法を選択できているのか明らかではない。

そこで、より効果の高い資材や施用方法の開発につなげるため、その抑制機構を解明する。

3. レタスビクベイン病の被害軽減のための前作物の検索と処理方法の検討 (H31~R3)

レタスビクベイン病の多発圃場の対策として、輪作や緑肥による被害軽減技術の確立を目指す。

淡路地域のレタス栽培では、前作に、水稻（青刈りイネ、調整水田を含む）、ソルゴー、カラシナなどが作付けされている。カラシナは、栽培後、土壤にすき込むとビクベイン病を引き起こすウイルス濃度の低減に効果があると明らかになっているが、その他の緑肥等では、ウイルス濃度に与える影響は確認されていない。

今年度も引き続き、室内試験およびプランター試験において、前作が可能な緑肥やその他の作物の中から、土壤中のウイルス濃度を低減させるものを選抜し、圃場試験に供する作物候補を明らかにする。

4. イネばか苗病の防除技術の再構築 (H31~R3)

イネばか苗病は、1990年代以降、新規種子消毒剤（DMI剤）の導入により、発生が抑えられてきた。しかし、近年発生が問題となってきており、種子を介した伝染を食い止め、健全な種子生産のための技術確立が求められている。

今年度は、引き続き県内に発生するイネばか苗病菌の菌株の収集・分離、それら分離菌株の薬剤感受性の確認、温湯種子消毒や化学農薬消毒などの各種種子消毒法の組み合わせ効果及び育苗期における発病抑制効果技術を検証するとともに、シメコナゾール、テブフロキンをを用いて、ばか苗病の保菌低減の可能性、本田防除剤として効果の検証を行う。

(兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター

病害虫部 松本・岩本・内橋・川口)

上程の6議案を可決承認
—第60回通常総会—

兵庫県植物防疫協会では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、総会開催形式を書面による表決としました。

総会に提出された(1)令和元年度事業報告並びに収支決算、(2)令和2年度事業計画並びに収支予算、(3)令和2年度会費賦課、(4)兵庫県植物防疫協会会則の一部改正、(5)役員を選任、(6)顧問及び参与の選任、以上6議案はすべて原案どおり承認されました。

令和2年度事業計画並びに収支予算は、次のとおりです。

I 事業計画

1 受託試験事業関係

(1) 無人ヘリコプター利用試験

地域において発生し問題となっている水稻の病害虫等の効率的な空中散布による防除対策を確立するため、(一社)農林水産航空協会から委託のあった試験を実施する。

試験課題	水稻・対象病害虫等	薬剤名	実施予定月日	実施場所
適用拡大	ウンカ類、コブノメイガ、紋枯病	NNIF-1840フロアブル	R2年8月21日(出穂7日前)	上郡町

(2) 新農薬等展示ほ試験

登録農薬の普及推進並びに防除技術の向上を図るとともに、兵庫県における防除指導指針等の参考に供するため、(公財)日本植物調節剤研究協会及び賛助会員から申し込みのあった新農薬等の展示ほを県下各地に設置し、県関係機関の協力により効果試験を行う。

検討会等	開催月日	開催場所	参集人員
新農薬展示ほ設置打合せ*	R2年4月13日	兵庫県農業共済会館	55名
新農薬展示ほ現地調査	R2年7月15日	加古川・加西普及センター管内	25名
新農薬展示ほ調査成績中間検討会	R2年11月中旬	兵庫県農業共済会館	60名
新農薬展示ほ調査成績検討会	R3年3月上旬	兵庫県農業共済会館	60名

*展示ほ設置打合せは新型コロナウイルスの影響で中止、調整は電話やメールなどで行った。

(3) 新農薬実用化試験

新規開発農薬の登録に必要な薬効、薬害及び作物残留試料調製試験並びに除草剤・生育調節剤の適応性判定の試験と県内における適応性等の検討のため、(一社)日本植物防疫協会及び(公財)日本植物調節剤研究協会からの委託試験を県関係機関の協力を得て実施する。

2 一般事業関係

(1) 植物防疫に関する研修

ア 農薬管理指導士認定研修会

農薬の適正かつ安全な使用を推進するための認定制度に基づき、兵庫県が開催する農薬管理指導士認定研修会の開催に協力する。

- (ア) 時 期 令和2年12月上旬の2日間
- (イ) 場 所 神戸市
- (ウ) 受講見込 100名

イ 農薬管理指導士認定更新研修会

兵庫県が開催する農薬安全使用技術講習会の開催とアの認定制度に基づく管理指導士の3年更新に伴う認定更新業務に協力する。

- (ア) 時 期 令和3年1月～2月
- (イ) 場 所 未定
- (ウ) 更新対象者等 650名

(2) 植物防疫推進表彰

病虫害発生予察、防除対策及び農薬安全使用など植物防疫の推進において、優れた功績のあった団体及び個人を表彰する。

- (ア) 予備審査会 令和2年8月
- (イ) 現 地 調 査 令和2年10月～12月
- (ウ) 審 査 会 現地調査日と同日
- (エ) 表 彰 式 令和3年3月上旬

(3) 植物防疫に関する印刷物の刊行

ア 植物防疫のあゆみ 第6集

兵庫県植物防疫協会設立60周年の記念誌として発行する。

- (ア) 発行時期 令和3年3月
- (イ) 配布先 会員及び県関係機関

イ 兵庫県植物防疫情報

本県における植物防疫に係る情報を「兵庫県植物防疫情報」として年4回発行する。

- (ア) 発行時期 令和2年6月、9月、12月、令和3年3月
- (イ) 配布先 会員及び県関係機関（電子メールで配信）

ウ 農作物病虫害・雑草防除指導指針

農薬の適正・安全使用を図るため、兵庫県が「農作物病虫害・雑草防除指導指針」をホームページ上で公開している。協会はこの情報収集に協力する。

エ 農薬名称読替一覧

農薬安全使用の啓蒙のため、農薬の「種類名」と「商品名」の交互の名称を掲載した「農薬名称読替一覧(第4版)」(平成27年2月発行)の斡旋販売を行う。

II 令和2年度収支予算書

I 収入の部

単位：千円

科 目	予算額	科 目	予算額	科目	予算額
1 会費収入	2,610	2 事業収入	20,265	4 雑収入	11
正会員会費収入	1,600	研修事業収入	216	受取利息収入	1
賛助会員会費収入	1,010	共同印刷収入	9	雑収入	10
		無人ℍ受託収入	600		
		展示ℍ受託収入	2,552	当期収入合計	23,170
		委託試験受託収入	16,888	前期繰越収支差額	9,543
		3 補助金等収入	284		
		団体補助金収入	284		
				収入合計	32,713

II 支出の部

単位：千円

科 目	予算額	科 目	予算額	科目	予算額
1 事業費支出	21,458	2 管理費支出	5,183	3 固定資産取得支出	1
給料手当支出	5,193	給料手当支出	2,520	什器備品購入支出	1
会議費支出	219	会議費支出	199		
旅費交通費支出	584	旅費交通費支出	126	4 業務引当金支出	1
通信運搬費支出	48	通信運搬費支出	255	業務引当金繰入支出	1
備用品費支出	826	備用品費支出	86		
修繕費支出	1	修繕費支出	1	5 予備費支出	6,070
印刷製本費支出	80	印刷製本費支出	231	予備費支出	6,070
賃借料支出	4,076	光熱水料費支出	186		
委託費支出	10,346	賃借料支出	585		
雑支出	85	保険料支出	42		
		諸謝金支出	216		
		租税公課支出	607		
		負担金支出	110		
		雑支出	19		
				当期支出合計	32,713

兵庫県植物防疫協会役員等名簿

令和2年7月3日現在

【役員】

役職等名	氏名	所	属
会長理事	吉本知之	兵庫県農業共済組合	組合長理事
副会長理事	澤本辰夫	兵庫県農業協同組合中央会	代表理事会長
理事	石塚博己	全国農業協同組合連合会兵庫県本部	県本部長
〃	水野光雄	兵庫県信用農業協同組合連合会	常務理事
〃	市川廣	兵庫県農業機械商業協同組合	理事長
監事	藤本和弘	一般社団法人 兵庫県農業会議	会長
〃	梅津隆行	兵庫県農薬卸商協同組合	理事長
運営委員	高谷直樹	兵庫県農業共済組合	参事
〃	松坂佳寿也	兵庫県農業協同組合中央会	営農支援部長
〃	桜井裕士	全国農業協同組合連合会兵庫県本部	県副本部長
〃	藤田泰範	兵庫県信用農業協同組合連合会	総務部長
〃	福島清孝	一般社団法人 兵庫県農業会議	事務局長
〃	松本功	兵庫県農薬卸商協同組合	専務理事

【顧問・参与】

役職等名	氏名	所	属
顧問	小舟博文	兵庫県農政環境部農林水産局農業改良課長	
〃	前川和正	兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター所長	
参与	深山貴世	兵庫県農政環境部農林水産局農業改良課環境創造型農業推進主幹(植物防疫担当)	
〃	時里文崇	兵庫県立農林水産技術総合センター次長兼企画調整・経営支援部長	
〃	松浦克彦	兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター農産園芸部長	
〃	神頭武嗣	兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター病害虫部長兼病害虫防除所長	

【職員】

役職等名	氏名	所	属
技術顧問	永井耕介	兵庫県植物防疫協会	
技術相談役	河野哲	〃	
〃	長田靖之	〃	
〃	相野公孝	〃	
試験調査員	中西敬司	〃	
〃	上谷安正	〃	
事務局長	柳瀬宏	兵庫県農業共済組合	事業部長
事務局次長	林道義	兵庫県農業共済組合	事業部農産課長
事務局次長	本岡昭彦	兵庫県農業共済組合	事業部農産課
事務局書記	保谷なおこ	兵庫県農業共済組合	事業部

※下線部は新任者

兵庫県植物防疫協会賛助会員名簿

アグロ・カネショウ(株)	クミアイ化学工業(株)	日本農薬(株)
アリストライフサイエンス(株)	サンケイ化学(株)	バイエルクロップサイエンス(株)
石原バイオサイエンス(株)	信越化学工業(株)	BASFジャパン(株)
出光興産(株)	シンジェンタジャパン(株)	北興化学工業(株)
井上石灰工業(株)	住友化学(株)	丸和バイオケミカル(株)
(株)エス・ディー・エスバイオテック	ダウアグロサイエンス日本(株)	三井化学アグロ(株)
OATアグリオ(株)	日産化学工業(株)	Meiji Seikaファルマ(株)
科研製薬(株)	日本化薬(株)	米澤化学(株)
協友アグリ(株)	日本曹達(株)	エフエムシー・ケミカルズ(株)
		※(一社)日本植物防疫協会

兵庫県植物防疫関係者について（令和2年4月1日現在）

このたびの定期人事異動により植物防疫関係者は次のとおりとなりました。
今後ともよろしくお願いいたします。

1 兵庫県農業改良普及センター植物防疫担当者

神戸谷川智規	豊岡土師拓人
阪神中谷隆文	新温泉世登大輝
加古川若林一兆	朝来脇舛真穂
加西椿野佳奈子	丹波武長克典
姫路岡本哲也	南淡路相川慎一郎
光都川添哲弥	北淡路岩橋祐太
龍野増田薫	

2 兵庫県農政環境部農林水産局農業改良課環境創造型農業推進班

主幹 深山貴世
職員 高原 漠

3 兵庫県立農林水産技術総合センター企画調整・経営支援部

専門技術員 松井孝之
" 田中得久

4 兵庫県植物防疫協会

技術顧問 永井耕介
事務局長 柳瀬 宏
事務局次長 林 道義
事務局次長 本岡昭彦
事務局書記 保谷 なおこ

新農薬等展示ほ58件の設置が決定 — 展示件数は前年に比べ16件増加 —

令和2年4月13日（月）に、県農業改良課、県立農林水産技術総合センター、農業改良普及センターおよび正会員であるJA全農兵庫、県農薬卸商組合、県植防賛助会員に参集いただき、「令和元年度新農薬等展示ほ設置打合せ会」を開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で開催は中止となりました。本来打合せ会で行う予定の設置個所数の調整は電話とメール等で行いました。

新農薬等展示ほの設置は、優良農薬等の普及推進並びに防除技術の普及を図るとともに、兵庫県における防除指導指針等の参考データとして役立っています。

本年度は、除草剤関係の展示ほが昨年の21件に対して、29件と8件増加しました。殺虫剤関係は、昨年の11件に対して19件と8件増加しました。殺菌剤・混合剤関係は、昨年の10件に対して2件と8件減少しました。この結果、全体では前年度より16件増加し、合計で58件の展示ほ設置件数となりました。（このほか、元年度未了分が1件）

なお、展示ほ現地調査(除草剤関係)を令和2年7月15日（水）に、加古川・加西農業改良普及センター管内の地域で実施しました。

令和2年度 新農薬等展示ほ設置状況

	除草剤	殺虫剤	殺菌剤	混合剤	合計		除草剤	殺虫剤	殺菌剤	混合剤	合計
神戸		1			1	新温泉	2		2		4
阪神	1	1			2	朝来	5	2			7
加古川	1	2	1		4	丹波	5	1			6
加西	4	3	2		9	南淡路		3	1		4
姫路	2	2		1	5	北淡路		1		1	2
光都	3				3	兵植防	5	2	2		9
龍野	1				1						
豊岡		1			1	合計	29	19	8	2	58



野菜のふしぎ



— 第13話 ニガウリの不思議 —

農学博士 永井耕介

「ニガウリ」の原産地（地球に始めてお目見えした場所）は熱帯アジアで、日本では南西諸島と南九州で多く栽培されています。本州では「ニガウリ」の名称で呼ばれることが多いですが、沖縄では一般に「ゴーヤ」と言われています。

「ニガウリ」にはどんな栄養素が詰まっているのでしょうか。「ニガウリ」はウリ科の中でも極めて多くのビタミンCを含んでいます。比較的ビタミンCを多く含むトマトの約4倍も「ニガウリ」には含まれているのです。その他にもβカロチンなどのビタミン類やカリウムなどの各種ミネラル類を豊富に含んでいます。

ニガウリの特徴はなんとと言っても**独特の苦味**ですよね。この**苦味成分は「モモルデイン」「チャランチン」「コロソリン酸」などで、緑色のイボイボの中に多く蓄えられています**。外側の皮の粒々が小さくて緑色が濃いものほど苦みが強いのです。この苦味が近年では夏ばてに効く健康成分として注目されています。

と言っても、多くの人は食べる時には塩もみなどで苦みを少なくする処理を行います。鳥も食べないようなニガウリがそもそも、どうして存在するのでしょうか。実はニガウリは果実が緑色の未熟なものは苦みは強いですが、**果実が成熟して黄色になると苦味は無くなります**。その時には種子も真っ赤になり、発芽のできる準備が整います。ニガウリは種子が成熟するまでに鳥などに食べられないように苦味で守られていたのです。うまくできていると思われませんか。

店頭での良い「ニガウリ」の選び方をご存じでしょうか。そのポイントは「イボ」が密集しているもの、色が「鮮やかな緑色」で、「艶」のあるものを選ぶことです。新鮮なものは手でもって重量感があります。

家庭での保存では、乾燥すると緑色のイボが黄色に変色するので注意が必要です。生での長期の保存はむずかしいですが、下ごしらえしたものを、塩もみすれば、冷蔵庫で4～5日は保存ができます。

「ニガウリ」は夏季高温時での生育が旺盛で、その上、病気や虫に対しても比較的強いので日よけ（緑のカーテン）対策としても注目されています。ただし、ニガウリの生育には豊富な日照と気温それに十分な「水」が必要です。それで、プランター等で栽培する場合は水不足にならないよう注意が必要です。

暑い夏は「ゴーヤチャンプル」を食べて、乗り切ってください。



兵庫県では淡路から但馬まで多様な気候風土の中、「ニガウリ」や「カボチャ」など地域特産農産物が作られています。それらは色、形も多様で食べる人の目を楽しませてくれます。また、緑（葉緑素）、橙（βカロチン）、赤（リコピン）、紫（アントシアニン）などそれぞれの色素が目を楽しませるだけでなく、身体の健康を維持する種々の機能成分であることも明らかになってきました。

私は兵庫県立農林水産技術総合センターで長年、野菜や果物の味や栄養価さらには鮮度保持の技術を研究してきた「トマト博士」です。これから紹介する県内の特産農産物のすばらしさを感じていただければ、また、1つでも「へー」と思われることがあればうれしいです。

（兵庫県植物防疫協会 技術顧問）

【編集後記】

令和2年度初めての植防情報です。

はじめまして、この4月の異動により全く初めての植防経験となり、右も左もわからないまま怒濤の3ヶ月が経過しました。年齢的にも徐々にですが慣れていきますので、どうか辛抱強くおつきあいの程お願いいたします。

さて、現在進行形であるものの、この3ヶ月は世界中で未曾有のコロナ禍に見舞われ、日本でも初めての緊急事態宣言を発出し、植防業務も3密を避けるべく、会議の中止等で大きな影響を受けました。

植防関係者の皆様にご迷惑をおかけしたこと、この場をお借りしてお詫び申し上げたいと思います。皆様も新しい生活様式を実践しつつ、コロナには十分気をつけた日常を送りましょう。

ワクチンも無い間は、来たるべき第2波に向けて免疫力アップを目指したいものです。大変な1年になりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。(M)

兵庫県植物防疫協会 今後の予定

令和2年

11月 中旬 新農薬展示ほ調査成績中間検討会 兵庫県農業共済会館

発行元

兵庫県植物防疫協会

神戸市中央区下山手通 4-15-3

TEL 078-332-7144

FAX 078-332-7152

e-Mail hyogo-syokubo@mountain.ocn.ne.jp

